

2016年1月

## ★「手術時に破損したゴム手袋の体内遺残が腫瘍化!?!」★

### 手術終了後、ゴム手袋の破損を確認していますか？

初回手術時に破損したゴム手袋が、次の手術時に体内から腫瘍化して、発見されたという事例が報告されています。

この事例の詳細は、患者安全ジャーナル（2015. No39）に紹介されています。ここに一部抜粋して紹介します。

#### <事例の紹介>

患者は11歳女児。腹部に鈍い痛みを感じるようになり近医の小児科を受診したところ、詳細な検査が必要とのことで、地域の基幹病院であるZ病院に紹介された。左卵巣未熟奇形腫と診断され、20XX年3月、左卵巣未熟奇形種摘出術が施行された。

この手術では執刀医は外科専門医A（経験15年）、第一助手は小児外科専門医B（経験20年）が務めた。手術は、腫瘍が大きく、摘出に難渋した。用手的に腫瘍を持ち上げる必要があり、術者らは腹腔内のかなり奥まで手を入れなければならなかった。退院後外来にて、再発予防を目的とした化学療法を実施したが、初回手術から5か月後の同年8月、腹部のCT画像にて大小2か所の転移巣と思われる腫瘍が出現を認めた。

2つの腫瘍を同時に摘出する目的で、腹膜播種巣切除術を施行した。腫瘍は無事摘出されたが、大きい腫瘍は左横隔膜下への転移巣であった一方、胃の後面付近の小さい腫瘍は、手袋の一部と思われる遺物であったことが分かった。

#### <事例の背景>

この事例は、医療安全管理室がこの手術に関わった医師・看護師に聞き取り調査を行っています。その内容の主なこととして、

- 執刀医Aは手術時に手袋交換をした記憶はなく、第一助手Bは、手袋交換をした記憶はあるが、その理由は記憶にはない。
- 手術に関わった医師・看護師は誰も、手袋の破損には気が付いていない。
- 手術関係者は、手袋が破損することを日常的に経験していたが、破片が遺残した事例を経験したことがなかった。

- 手袋の破損に関しては、手術室看護師個人の裁量より、チェックする看護師とチェックしない看護師が混在していた。

## ☆皆さんは、手術終了後、手袋をチェックしていますか？☆

おそらく、多くの手術室では、手術後全ての手袋を確認することはしていないのではないのでしょうか？

「ジャーナルでの再発防止策」

### 1. 手袋の破損確認の実施

- ①手術開始時に、装着した手袋の形状。破損の有無を各人がチェックする
- ②手術中に手袋を再装着した場合、外回り看護師は外された手袋の形状、断裂の有無を確認する。外された手袋に断裂があり、遺残の可能性があると判断した場合、術者は術野を慎重に観察し、体内遺残がないかを確認する。
- ③術者は、閉創時に術野の確認を行い、体内に手袋の破片等の遺残がないことを確認する。
- ④手術終了時に外した手袋は、その形状、破損の有無を各自が確認する。

### 2. 強度の優れた手袋の使用



これらは実用可能な、再発防止策でしょうか？



そこで、日本手術看護学会としては、次のことを奨励します！

☆各自手袋のチェック（装着時・手術中・終了時）を行う。

☆手術中、最低でも2～3時間毎の手袋交換の推奨（感染防止の視点から）

※手袋交換の時期に関しては、各施設でのルール化を推奨します。

☆2重手袋の推奨

☆手術終了時の創・腔内の十分な洗浄の実施

今回の事例は、特殊な事例ではあると思われます。しかし、このような事例もあると、常に意識し、患者安全に努めましょう！

本学会では、皆様の情報やご意見をお待ちしています。

（日本手術看護学会 安全対策委員会）